

## 有識者議員懇談会議事概要

- 日 時 平成24年11月1日（木）10：00～10：34
- 場 所 合同庁舎4号館第3特別会議室
- 出席者 相澤議員、白石議員、中鉢議員、平野議員、大西議員、吉川審議員

### ○ 議事概要

#### 議題1. 平成24年度 科学技術戦略推進費の「重要政策課題への機動的対応」に係るプロジェクトの実施方針

- 相澤議員 本日の議題は、「平成24年度科学技術戦略推進費の『重要政策課題への機動的対応』に係るプロジェクトの実施方針」であります。科学技術戦略推進費の今年度実施対象として、機動的対応につきまして今まで検討してまいりました。今日はこの検討内容を最終的な決定まで持ち込みたいと思いますので、御協力の程を宜しくお願い致します。それでは、まず説明をお願いします。

<内閣府 中川企画官、農水省（西郷研究総務官、香川増殖推進部長）より説明>

- 相澤議員 2件ございますが、初めに1件目の「ほ場環境に応じた農作物への放射性物質移行」について、御質問、御意見を頂きたいと思います。

- 大西議員 内容については結構だと思うのですが、実施機関について幾つか例示がありました。地元の福島大学で農地についての調査をされたりしていると思うのです。福島県というのは書いてありますけれども、そういうメンバーがこの調査研究に加わっていないようにも見えるのですが、その辺りはどういうふうにお考えでしょうか。

- 中谷研究統括官 直接の御参画は頂いていないのですが、この他にも学習院大学や福島大学、東北大学等、様々な知見をお持ちのところがございます。そちらにもお声がけをさせて頂いたのですが、福島県に協力するという形で協力したいというお返事を頂いておりますので、「福島県」と書いてある中に福島大学や学習院大学というところが入っていると御理解頂ければ有難いかと思います。

- 大西議員 説明は分かりましたが、地元の大学として色々調査を実施してきている実績があると思うのです。そこと国の調査が間接的にしか繋がっていないというのはあまり適切ではないと思うのですが、何か事情があるのでしょうか。

- 中谷研究統括官 年度途中からの実施ということで、それぞれのところのエフォート、或いは、会計処理の問題等々で、今回は福島県に協力するという形で協力させて頂きますというお答えを頂いております。

- 大西議員 重ねて最後ですけれども、折角調査しても、地元の農家の方の一定の信頼を受けているような研究者が参加してこうした調査研究について理解しているということにならないと、調査結果が出てそれが色々批判されたりして、信頼性が高まらないという恐れもあると思うのです。ですから、この領域での最先端で研究しておられる方々の理解を得て、或いは、アドバイスを得ながら、体制を組んで進めていくということをして頂かないと、折角何かデータが出て信頼を得られないために使われないという結果になっては意味がないと思うので、是非そこは宜しくお願ひしたいと思います。

- 西郷研究総務官 福島大学、その他の方々とも十分調整をした上で、色々なことを進めていきたいと思ひます。

- 相澤議員 私から質問が一つあるのですが、今回、放射性物質の分布図を作りますね。そのデータを基に3段階でリスクマップを形成する訳ですが、土壤中の放射性物質濃度とリスクマッ

ピングの数値的な3段階への分け方というのはきちっと定まっているのでしょうか。

○西郷研究総務官 土壌中の濃度が高ければ当然のことながら植物に移行するリスクは高いのですが、土壌中の濃度が低いから移行しないということでもなく、逆に高いからといって必ず移行するというということでもないというのが分かってきた訳でございます。

そこで、場所によって色々な要因があるため、分かりやすいリスクマップにしていく必要がございます。例えば土壌中濃度だけでなく、土壌中の放射性セシウムを土がガチッと掴んでしまうと、土壌中の濃度は高いけれども、なかなか出ていかないということが起きる。或いは、それが弱いと、土壌中の濃度は低いけれども、植物が吸ってしまう。それから、植物によって吸いやすさが異なるということが分かってきておりますので、これを詰めて土壌中の濃度だけではなく、セシウムの固定力という新しい指標をマップにして、それと、作物が吸収するリスク等を勘案したマップに段階的にしていこうと考えております。

○相澤議員 それがマップとして出来上がった姿なのですが、その判断基準、リスクファクターに相当するものがきちっとした体系的な根拠に基づいて定まっているのかどうかということを知っている訳です。

○中谷研究統括官 極めて明確にこの指標をもって判断出来るというところには、少なくとも大豆の場合はまだ至っておりません。但し、今回御説明申し上げました2ページの資料にございますように、例えば、水稻で有効であったカリという指標は大豆では使えないと。一方で、私どもの予備的な検討の中では、この検討の一つの中心的な課題でございます土壌のセシウムの固定力という指標がある程度の相関関係を見出しております。ですので、それを確認し、尚且つ、大豆の生理的な特性を緊急に解明することによって、100%とは申しませんが、ある程度信頼性のあるマップは出来るものと考えております。

○相澤議員 そこで、消費者に情報が公開されるのは、そういう判断基準はどこかにきちっと整理されているけれども、そのことを公表するのではなく、出来上がった最後のリスクマップだけだという理解でしょうか。

○中谷研究統括官 それにつきましては、先程御説明申し上げましたように、関係県等々とも公表の方法について協議させて頂きたいと思っておりますが、必要に応じてそのマップのベースとなった、根拠となった学術的データも恐らくは公表する方向で検討するのではないかと考えております。

○相澤議員 第2点目の「高濃度に放射性セシウムで汚染された魚類の汚染源・汚染経路の解明」に関わることにつきまして、御質問、御意見如何でしょうか。

○大西議員 この説明資料で、前から説明頂いていますが、2012年の8月に採取されたアイナメに極めて高い濃度があったということですね。これは8月1日ということになっていまして、それから2か月以上経っているのですが、それ以降のデータの中でこうした高濃度の魚は出てきているのかどうか。アイナメをある程度重点的に調査されているのではないかと思いますが、それはどうでしょうか。

○森田水産研究専門官 高濃度のアイナメが採取された地点において、東京電力と協力して50検体程アイナメを採取しましたが、最高濃度でも1300bq程度のもので現在は採取されていない状況です。

○相澤議員 只今の件について、逆に、低い測定値のアイナメの耳石を分析したら、この期間に高濃度の蓄積状況があったという例はないのでしょうか。

○森田水産研究専門官 まだそこまでの分析は進んでいないのですが、予備的なデータとしては、高濃度のアイナメの耳石には明らかに高濃度の放射性物質が含まれているというデータはあります。低濃度のものはほとんど濃度が検出されていないというデータが今とれているところで

す。

○相澤議員 それは耳石の分析についてですか。

○森田水産研究専門官 耳石を削る前の段階の全体の耳石をそのまま予備的に測定したところ、そういうデータが得られております。

○相澤議員 その他、御質問、御意見如何でしょうか。特段の御意見がございませんようですが、本日提案されたのが2件でございます。この2件を科学技術戦略推進費の平成24年度の機動的対応として認めるということをお諮り致します。如何でしょうか。御了承頂けますでしょうか。有難うございました。

それでは、本日、大臣等政務三役が御欠席ですが、最終的にそこを確認して最終決定とさせて頂きます。本日の有識者議員懇談会は以上の議題で終了でございます。